丸山湿原群保全の会会報

（第 101 号）

発行日：平成 28 年３月 31 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788

臨時連絡先　　090 - 1895 - 8061（今住（いまずみ））

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

会員の皆さんいかがお過ごしでしょうか、三寒四温とは言え奇妙な陽気が続く今日この頃です。地球規模の気候変動が確実に目に見えるようになってきていることを感じます。

しかし自然は変化に敏感で、タムシバも満開近し（10 日ほど早い？）、シュンランも花を咲かせ始めました（これは例年通り？）。ウグイスのさえずりも頻繁に聞かれるようになりました。いつまでもこの季節の循環が続くことを願ってやみません。

今後も活動にご参加よろしくお願いいたします。　（今住　３月２８日作成）

<ご報告・ご連絡>

岸代表

体調不良のためしばらくお休みされます。代行として今住（副代表）が会報を作成いたします。これまで岸代表にすべてお任せしていたこともあり、ご迷惑をおかけすると思いますが、ご協力のほどお願いいたします。他機関との連携については、現在調整中。何か情報お持ちの方は連絡してください。

臨時連絡先

私の携帯番号と、「丸山湿原群保全の会」のアカウント（メールアドレス）を上記のように作成いたしました。質問意見等有りましたら、こちらのメールに連絡ください。電話については、仕事の関係上とれない場合が多いと思います。留守電にメッセージ等を残していただければ助かります。（SMS の返事の場合もあります。あしからず）

活動予定

定期調査（第２土曜）活動日（第４土か日曜）は今までどおり続けていきます。参加のほどよろしくお願いいたします。次回活動日は４月９日（土）、４月 24 日（日）です。ご予定を。

第２湿原の視点場が完成しました

高台にそびえる物見やぐらのようです。湿原をまぢかで観察することは不可能ですが、第一と同じようなプレートがついています。第２湿原に行くにはかなり谷が深いので、こうなったのだろうと推測されます。

第２湿原全体を見渡せるので景色は圧巻です。

＜活動報告＞

★3月12日（土）

来場者数

目的	市内	市外
丸山	60	10
ハイキング	5	7
その他	24	2

定期基礎調査

気温	時間	温度	電気伝導度
入口	10：05	10.3℃	24μS/cm
視点場	10：55	7℃	

イノシシが大暴れ。道筋、湿原内にもかく乱の跡が見受けられます。適度なかく乱かどうかは見守りしかありません。

水量調査

機器の不調も出てきており、調査連絡になんら返事もないようなので、そろそろ打ち切りでもいいのではと代表と話しております。しかし、今までのデータについては分析がほしいところです。水文学は難しい。

★3月27日（日）**活動日**・・・（26日にも２名で活動されました）

会員２名の参加、天気もよく気持ちのよい１日でした。久しぶりの活動参加の方で作業ではなく、丸山湿原群をもう一度おさらいする活動となりました。コバノミツバツツジ、シュンランの開花確認。ヒサカキの花も咲き何とも言えない香り（いいにおい？）を放っておりました。蝶も多く飛び始めました。今回の蝶は別紙に掲載。

問題点

以前より代表指摘の「入口竹ポスト」。厳しい状態です。次回４月９日に交換とします（予定）。

ご協力お願いいたします。「竹」については準備いたします。（「できるんやったらなんで早くせんかってん」とご指摘がありそうですが。ごめんなさい。）

第１湿原群周囲の丸太柵が根元の腐食が激しくなってグラグラしてきております。微生物の偉大な活動成果ではありますがご注意を。改善は必要と思われます。

旧道にマウンテンバイクの轍あり。数は少ないですがやはり自転車が入り込んでいるようです。

今回の蝶（３月27日）

ルリタテハ

紺色地にルリ色のラインが特徴的なタテハチョウ。
雑木林の周辺で見られ、地上に静止していることが多いが、人の気配を察するとあっという間に遠くまで飛んでいってしまう。しかし、しばらく待っているとたいてい戻ってくる。樹液にもよく集まる。
成虫で越冬するので、早春から飛びはじめる。
幼虫の食草はサルトリイバラ。

アカタテハ

前翅は朱色と黒色、後翅は茶色のタテハチョウ。ヒメアカタテハに似るが、本種の方が大きく、後翅が茶色いことで見分けられる。
山地から人家周辺まで幅広い環境で見られる。アザミなど、いろいろな花で吸蜜する。
成虫で越冬するので、早春から飛びはじめる。幼虫の食草は、カラムシ、クサマオ、ヤブマオなど。

テングチョウ

てんぐのように顔の先が尖っている茶色っぽいチョウ。羽根の表面にはオレンジ色の紋がある。鼻のように見えるのは、下唇ひげ（パルピ）という部分。
低山地の雑木林に多く、時に集団発生する。よく飛び回るが、すぐに地面にとまる。花で吸蜜することも多い。
成虫のまま越冬し、早春から飛びはじめる。幼虫の食草はエノキなど。

詳しくはネット検索、図鑑、高山さんに聞いてください。（高山さん勝手にごめんなさい。）

　丸山で見られた蝶ですが、画像と説明はネットより貼り付けです。丸山で撮影と書いても全く違和感がないのが恐ろしい。
　成虫のまま冬を越す種類がいま一番多いようです。どこで風雨に耐えるのでしょうね。しかも、羽がきれい！（ボロボロになっていそうな気がしますが・・・）自然はすごい！！

PS・神戸大学農学部より「蛾」の調査に入るとのこと。　　高山会員より寄付あり。（謝）